

PORT SAPIE

ぽるとさぴえ

vol.
27
2014.August

特集

函館を動かす我が校OB

座談会『地域振興・再生に必要なこと』

学長インタビュー
学長 溝田春夫

平成25年度就職実績
就職に向けた様々な事業を展開し、
高い就職実績を実現



函館大学

ぽるとさぴえ

2014.August Vol.27

函館大学広報誌Vol.27 発行/函館大学広報誌編集事務局

1年間の主な行事日程

2014年	4月	5日	第50回入学式
		7日	新入生歓迎イベント
		8日	1年次オリエンテーション
		11日	前期授業開始
		21日	第1回就職ガイダンス(3年次:以降17回実施)
		22日	第1回キャリアガイダンス(2年次:以降15回実施)
	5月	24日	春期教養講座『英文学入門』
	6月	14日	春期教養講座『使える英語のための発音のコツ』
		18日	函館大学協学会地区懇談会(熊本)
		28日	ミニオープンキャンパス(札幌)
	7月	4日	函館大学協学会地区懇談会(新潟)
		5日	ミニオープンキャンパス(青森)
9日		函館大学協学会地区懇談会(横浜)	
26日		第1回オープンキャンパス(本学)	
30日		前期授業終了	
31日		前期試験開始(～8/6)	
8月	1日	AO入試(A日程)面談申込受付開始(～9/30)	
	7日	夏季休業開始(～9/21)	
	23日	函館大学協学会地区懇談会(函館)	
	24日	函館大学協学会地区懇談会(札幌)	
	30日	ミニオープンキャンパス(函館)	
	9月	1日	函館大学協学会地区懇談会(青森)
2日		函館大学協学会地区懇談会(秋田)	
3日		函館大学協学会地区懇談会(盛岡)	
6日		授業公開講座『社会福祉論』(全4日間)	
19日		学園創立記念日	
21日		夏季休業終了	
22日		後期授業開始	
		授業公開講座『社会学』(全11回)	
25日		授業公開講座『簿記原理』(全30回)	
27日		第2回オープンキャンパス(本学)	
10月	1日	AO入試(B日程)面談申込受付開始(～12/25)	
		就職内定公示	
	19日	大学祭	
	25日	秋期教養講座『小学生ハンドボール教室』 試験入試(A日程)、特別奨学生選考試験(A日程)	
11月	21日	指定校推薦入試(A日程)	
	22日	一般推薦入試(A日程)、編入学試験(A日程)	
	29日	秋期教養講座『あなたの財産を守るためには?』～印鑑を押す前に考えるべきことは～	
12月	13日	本学主催業界研究会(函館)	
	22日	冬季休業開始(～1/13)	
2015年	1月	5日	AO入試(C日程)面談申込受付開始(～3/23)
		13日	冬季休業終了
		14日	後期授業再開
	30日	卒業論文提出締切	
2月	2日	後期授業終了	
	4日	試験入試(B日程)、特別奨学生選考試験(B日程)、社会人入試・編入学入試(B日程)	
3月	2日	春季休業開始(～3/31)	
	9日	一般推薦入試(B日程)	
	16日	第47回卒業式	
	23日	試験入試(C日程)	
	25日	2・3・4年次オリエンテーション	
	26日	2・4年次履修登録	
	27日	3年次履修登録	
	31日	春季休業終了	

函館大学 広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181 FAX(0138)57-0298



学長 溝田 春夫

を地域の中から見つけ、その解決方法を自ら考え、探していくとともに、地域に貢献できるような実践教育を行っています。これは「考える力」を身に付けていくアクティブラーニング。自分で問題を見つけ、考え、解決していくことは、社会に出てから会社の中で求められることです。こういった力を身に付けた学生を社会に送り出していきたいと思っています。

―街へ出ることで、地元企業を知る良い機会にもなるのでは？

学長 ●そうですね。学生たちに、地域にはどんな会社があるのかを知ってもらおうと同時に、会社

にとつても「函館大学にはいい学生がいる」ということを知ってもらいたいということもあります。学生が商学実習やゼミなどで様々な調査活動をしている中で、企業の方から「いい学生がいますね」と言っていただけのこともあります。実際に学生を見て、判断していただけるのは、大学にとつても嬉しいことですね。

―社会に貢献できる人材育成を掲げ、社会で活躍する卒業生を多数輩出していますが。

学長 ●卒業生が社会で活躍してくれることは、大学として一番嬉しいことです。特に最近、市中心となつて活躍している卒業生

が出ていますので、非常に嬉しく思っています。また、中小企業の経営者になったり、起業したりして頑張っている卒業生もたくさんいます。さらに、本学だけでなく、学園として見ると市内で重要なポジションを担っている多くの卒業生がおりますので、やはり嬉しいことですね。

―新幹線の開通が近づいてきていますが、これからの函館について思うことは？

学長 ●大学としては、青森をはじめとした東北との関係が近くなると考えられますので、大学間でも何か連携できればとは思っています。そして街については、やはり若者が残れるようなまちづくりが必要でしょう。まずは経済なのでしようが、若い人たちが働く場、活躍できる場の創造を考えなければならぬと思います。それに対し、大学でも何ができるかを考えていきたいと思っています。

―来年度、函館大学は創立五十周年を迎えますが、これからの函館大学が目指すところは？

学長 ●本学は商学部商学科としてスタートし、その後、社会の二



ズや学生数などに対応して二学科体制、そしてふたたび一学科体制へと変遷を遂げてきました。その中で、商学科としての伝統はずっと受け継いできています。現在どの大学も厳しい時代を迎えています。いかに良い教育を行い、良い人材を送り出していくかが益々求められるでしょう。大学がしっかりしていなければ、日本の将来、社会も先行きが不安になります。地域、そして日本の発展のために貢献できる人材をどんどん輩出していきたいと思っています。

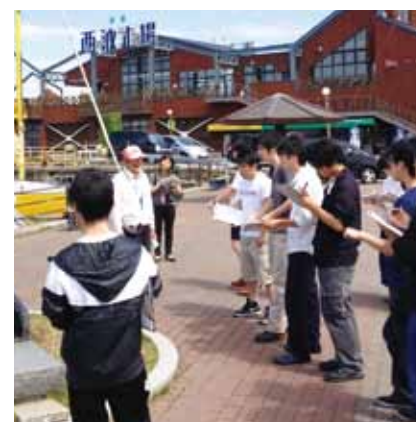
地域振興・再生における函館大学の使命。地域や企業と連携した実践教育を推進

学長インタビュー

地方都市にとって大きな課題となっている地域振興・再生への道筋。函館大学には地元根付いた大学として、社会で活躍する多くの人材輩出が地域から求められています。これまでも社会や地域のニーズに応えるため、さまざまな改革や取り組みを行ってきた函館大学。来年度、節目の創立五十周年を迎えることから、これまでの取り組み、今後の展開を溝田春夫学長に伺いました。

―経済が停滞している地方都市にあつて、地域振興・再生における函館大学の使命とは？

学長 ●本学は地域にある大学として存在感を出すためにも、地域の課題を取り上げ、地域発展のために果たす役割を担うていかなければなりません。近年は文部科学省も大学の存在意義として、地域に根ざしているいろいろな活動をしていくことを求めています。日本の将来のためにも、地域の振興は欠かせません。本学はこれからも地域と二階に発展していく大学にしていきたいと考えています。



―使命のため、函館大学が取り組んでいることは？

学長 ●本学で数年前より授業として取り組んでいるのが商学実習です。学生に「何のために商学を勉強するのか？」を理解してもらうため、実際に抱えている課題

ぽろとびえ

Vol.27
2014.August

「ぽろとびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサビエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかに、大学らしい英知の香りを漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



表紙/カトリック元町教会と東本願寺函館別院

Contents

- 学長インタビュー（溝田 春夫）
地域振興・再生における函館大学の使命。
地域や企業と連携した実践教育を推進1
- 特集 函館を動かす我が校OB
座談会「地域振興・再生に必要なこと」.....3
- 函館大学五十周年の歩み（年表）.....7
- 平成25年度商学実習Ⅱテーマ一覧9
- 函館大学の教育&オープンキャンパス.....10
- 平成25年度就職実績
就職に向けた様々な事業を展開し、
高い就職実績を実現11
- がんばる社会人一年生・
インターンシップ体験12
- 出身校紹介
北から南から13
- FROM THE WORLD
日本語や日本の文化を学ぶため、
アメリカ（ハワイ）と中国（天津）から留学。.....15
- 函大ing CLUB TOPICS
監督、選手がU-22男子日本代表チームで躍動
ハンドボール部17
- 就職活動や社会人になって役立つことが身に付く。
弁論部17
- 全国大会出場を目指し、チーム一丸となって。
硬式野球部18
- 念願叶い同好会を発足。楽しくをモットーに、
目指すは大会出場。
バレーボール同好会18
- Campus Report
「長期留学」体験者対談19
- 「春季派遣留学」体験者座談会19
- イベント実行委員会20
- 平成26年度の公開講座21
- 平成25年度 学校法人野又学園 決算書21
- 授業アラカルト
『社会調査』准教授 大橋 美幸 先生22

函館を動かす我が校OB

座談会『地域振興・再生に必要なこと』

経済の低迷が続く、人口の減少も止まらない函館。地域振興・再生が課題のひとつとなっています。そんな中、平成二十八年には函館市にとって大きなチャンスとなる北海道新幹線の開業を控えています。そこで、行政、経済、観光、地域活動などさまざまな分野で先頭に立ち、活躍されている本学OBを迎え、まちの発展に必要なこと、これからの日本を支える若者への熱いメッセージなど、本音で語っていただきました。(函館大学ベイエリア・サテライト旧金森美術館に於て)



函館大学ベイエリア・サテライト(旧金森美術館)

◆司会進行
函館大学学長
溝田 春夫 氏

◆座談会メンバー
函館市議会議長
松尾 正寿 氏

ホンダカーズ北海道(株)代表取締役会長・
函館商工会議所会頭
松本 榮一 氏

金森商船(株)代表取締役社長・
函館国際観光コンベンション協会会長
渡邊 兼一 氏

学校法人木村学園理事長・
函館町会連合会会長
木村 一雄 氏



函館がさらに発展していくために必要なこと

学長「皆様、本日はお忙しい中、お集りいただきありがとうございます。」

本学は来年、創立五十周年を迎えますが、これまで卒業生は九千五百六十名を数えます。函館市の中でも重要なポジションで活躍している卒業生もたくさんおります。早速ですが、函館として全国で活躍されている諸先輩より、函館の発展のために必要なこと、何が求められているのかを、それぞれのお立場で意見をいただけますでしょうか。」

松尾氏「周辺に迫った北海道新幹線の開業効果につきましては、当然、期待しているところです。そして、効果を得るためには、経済界や観光業界など、みなさんの協力が必要であると

思っています。多方面の協力を得ながら、まちの発展につなげていければいいですね。また、今、一番懸念されているのが人口の減少。行政としては少子化対策が大きな課題になっています。」

学長「経済界としては、どのようなご意見をお持ちですか。」

松本氏「人口の問題は、日本の地方都市がそれぞれ抱えている問題です。その原因を考えると、函館は学園都市として大学も多いし、優秀な学生も輩出していますが、問題は受け皿となる企業。人口の減少に伴って小規模化したり、従業員の数が減ったりしている。このような背景が、若い人の流出に拍車をかけてしまっているところがあります。また、人口が減ると、消費も小規模化してしまふ。ですから、新幹線の開業に向け、南進政策を進めていくことが必要だと思っています。来る人を持つだけでなく、企業はこれから東北などに行き、広げていくこ

とも有望な手なのではないでしょうか。もちろん、函館の経済界の受け皿をしっかりする取り組みも大切です。」

学長「本学でも函館に残りたいと希望している学生も結構いるのですが、札幌や東京へと行ってしまうのが現状。学生が函館で活躍できる場があることは、大学にとっても嬉しいことです。それでは、観光業界のほうではないかがですか。」

渡邊氏「今、松本会頭がおっしゃった経済の広域化は、観光産業にも言えることだと思います。現在、我々は道南全域、そして海を渡って青森と、みなさんと一緒になって、少しでもこの近隣に多くの観光客が泊まってもらえるよう、滞在型の観光を目指した取り組みを展開しています。そのことを考えると、北海道新幹線の開業は大きな影響を与えるでしょう。青函トンネルが開通した時と同じような、函館にとつては大きなチャンスだと思います。また、函館で降りた人たちをどう回すかは、道路整備が大きな課題でしょう。昔は団体旅行が主でしたが、今は個人旅行が多くなってきています。函館らしい差別化をして、魅力あるまちづくりをしていければと思います。」

学長「貴重なご意見、ありがとうございます。それでは、木村さんには町会連合会の会長として、地域の目線でご意見をいただけますでしょうか。」



木村氏「函館は合併して大きくなってきたまちです。平成の大合併の際には人口が三十万人を超えましたが、変貌していくまちもあれば、過疎化がますます進んでしまったまちもあります。町会も数少なくなくなりました。まちもありませんので、こちらも広域的にならざるを得ないのかなと思っております。その中で町会の方が集まっている、どのようなまちづくりをしていくのか、さまざまな業界と一緒になって話し合いをしていかなければならないと考えています。私は学園を運営していますが、函館の出生率は年々減少しています。晩婚化も進み、子どもがいない地域は発展しないというのが私の考え。子どもを産み、育てる環境づくり



松尾 正寿 氏

本学卒業後、函館マツダに入社。同社でのちの函館市長となる人物と出会い、同氏が市議会議員、道議会議員の時の秘書を務め政治の道へ入る。その後、平成三年に函館市議会議員に当選。現在は市議会議長として活躍している。



木村 一雄氏

本学卒業後、トーエイ(株)に入社。しかし、先代が幼稚園を開園するのをきっかけに、その意志を継ぎ、学校法人木村学園の理事長となる。また、地域に奉仕しようと函館町会連合会の会長職を引き受け、現在に至る。本学の同窓会会長も務めている。



松本氏「欧米などの企業は、日本に比べて新陳代謝が激しい。また、新しく起業する人の割合も日本は低い。どこへ勤めるかも大事ですが、「学校を

出たら、俺は会社を立ち上げるぞ」くらいの気持ちを持つてほしいな。僕は二十五歳で会社を立ち上げ、何度も倒産の憂き目にあって厳しい時もあつたけど、今は多くの人が勤める会社になった。だから、起業精神を持つてもらいたいというのが、私の願いです」

松尾氏「今の学生は気概がない。俺が何とかしてやるっていうね。例えば大企業じゃなくてもいい。小さい会社でも、自分が入って何とかしてやるという気持ちがある学生には足りないように感じるんだよね」

松本氏「僕はよく、失敗を怖がるなと言っているんです。怖がると起業精神なんか生まれてこない。僕と若者の違いは能力ではなく、失敗した数。新たに事業を始めようとする若者が減ってしまうのは、地域、ひいては日本経済にとっても大きな問題だと思います」

学長「渡邊さんもたくさん従業員を抱えていますか」

渡邊氏「やっぱり体育会系ですね。今の男性は草食系が多くて、逆に女性の方が肉食系。俺が引張っていくんだという感じじゃないければダメだと思います。だから社員には、世間はどうであろうが、俺が今、社長でいる限りは体育会系でやっていくと話しています」

学長「確かに、今は女性のほうが元気ですよ。学生もそうですが。それは学園を運営し、子どもたちとの関わりも深い木村さんはいかがですか」

木村氏「僕は高校卒業後、勤めたい会社があつたんだけど、進学することになつてしまつて。そこで、学生時代はいろいろなアルバイトを経験したんです。そして、親父の意志を継いで学園の運営を引き継いだ時は、多額の借金があつた。正直、今の学生は守られすぎて、報恩感謝が少なすぎると思うんです。それで、僕は卒業する時に生徒に言うのは、「最初の給料は親にくれてやりなさい。地元を離れる人は、ふるさと納税をしなさい」と。厳



函館大学学長 溝田 春夫氏

しさを学ぶため、実習体験をする時にも、厳しい会社を選んだほうがいいと思います」

学長「やはり、チャレンジ精神が大切ですかね」

松尾氏・松本氏「僕らも学生時代に勉強した記憶がないな。仕事をしてたね(笑)」

渡邊氏「僕も夏は土木工事のアルバイトをやつて、冬はデパートでアルバイトをしていました。自分で遊ぶ金は自分で稼ぐと」

学長「みなさんに共通しているのは、あまり勉強をした記憶がないと(笑)」

全員「はい、申し訳ありません(笑)」

学長「学生たちには失敗を怖れるな、何でも挑戦してみろということですね。厳しくも温かいメッセージをありがとうございます」



が求められており、少子化問題は国主導ではなく、地域主導でやらなければならぬ時代になつてきたと思いますね」

学長「なるほど。それでは行政としては人口を増やすため、どのような政策を行っているのでしょうか」

松尾氏「当市では、子どもたちの医療費無料化を進めました。また、赤

北海道新幹線の開業に向けて、どう取り組むか

ちゃんを産む若い世代への無料検診の回数を増やすなど、いろいろな政策を行っているんですが、なかなか出生率の増加にはなっていないのが現状です。今後も更なる手を打っていかねばなりません。それと同時に、多くの若者が函館で生活できるよう、経済政策も進めていきたいと思っています」

学長「先程、皆様には経済活性化においては若者が勤める企業を作っていく、観光面では滞在型への移行、そして住み良いまちにするために、子どもや若者への手当の充実など、さまざまなご意見をいただきました。新幹線の開業についてもお話ができましたので、ここで開業に向けての取り組みなどについて、もう少しご意見をいただけますでしょうか」

渡邊氏「先程もお話しましたが、道路整備は重要課題のひとつですね。空港までの道路の話も出ていますが、やはり、旅行者が早く移動できるような道路整備は不可欠。とにかく、新幹線の開業は、函館にとつて



松本 榮一氏

本学の前身である函館商科短期大学を卒業後、札幌でホンダのディーラーに勤務。三年後、函館へ戻り、ホンダカーズ北海道(株)を立ち上げる。会社は来年度で五十周年。また、函館商工会議所の会頭ほか、道商連の副会頭、日商連の北海道代表も務めている。

は目玉のひとつですから、それに向けて盛り上げることはもちろん、開通したあとのことも早めに手を打つていかなければ、継続的な発展にはつながらないと考えています」

松本氏「都市間の流通は、大部分が自動車です。道路網がないところでは、物も人も交流していかない。この対策については函館は遅れてしまいました。新幹線が札幌まで延伸する前に、高速道路の開通をしっかりとやっていかなければ、森、八雲、長万部は函館の商圏から外れてしまいますよ」

学長「人を函館に留めるための取り組みも必要ですね。先程、渡邊さんがおっしゃった滞在型都市にするとか」

松本氏「新幹線が開通すれば、二日に六、七千人が函館に入ってくると思います。その人たちが宿泊させることが経済効果につながります。函館

はもちろん、近隣の市町村の資源に磨きをかけて広域化し、一体化させていくことが、滞在型を増やすことにつながるでしょうか」

学長「近隣市町村との連携はできていますでしょうか」

松尾氏「おっしゃる通り、連携は不可欠でしょうね。新駅の駅名も決まりましたので、これからその連携に拍車をかけていきたいと思っています」

学生たちへ、先輩からの熱いメッセージ

学長「皆様にはいろいろとお話いただき、ありがとうございます。それでは最後に、これから大学を出て地域を背負って行く学生たちに、先輩からのメッセージをお願いします」



渡邊 兼一氏

本学卒業後、ボーニモリヤに勤務。その後、金森商船(株)に就職し、数年後に同社の社長に就任。倉庫業、不動産業を営んでいた同社は、青函博をきっかけに商業施設の運営へと移行。金森倉庫群はベイエリアの中心的な商業施設となっている。

函館大学 五十年の 歩み

本学は昭和四十年に開学し、
来年度、創立五十周年を迎えます。
これまで、さまざまな改革を行いながら、
時代や社会のニーズに応じてきた函館大学。
その歩みを見ていきましょう。



函館大学創立五十周年年譜

誕生期

昭和37年8月6日 高丘町に校地購入取得
昭和39年9月26日 設置申請
昭和40年1月15日 設置認可。「わが望みこの新しき学
び舎にかけて幾年暮らしてきしか」
創立者野又貞夫先生作
昭和40年4月1日 開学。初代学長野又貞夫先生
北海道産業開発研究所開設
昭和40年4月26日 第一回入学式
昭和40年5月6日 開学記念式典
昭和41年3月5日 教職課程。
中学職業・高校商業認定
昭和43年5月16日 十勝沖地震により本館校舎全壊
野又貞夫先生藍綬褒章受章
昭和43年6月19日

揺籃期

昭和60年8月23日 中長期構想委員会正式答申
昭和61年1月25日 創立二十周年記念並びに
校舎増築図書館・研究棟
落成記念式典挙行
昭和61年12月10日 第五代学長大野和雄教授就任
中長期構想に基づいた三コース制
導入。商学・会計コース、経営情報
コース、国際英文秘書コース
昭和62年4月1日

躍動期

昭和54年4月29日 村田喜学長勲三等旭日中受章
昭和55年 中長期構想委員会スタート
昭和55年12月10日 第三代学長佐藤裕教授就任
ハワイ・ロア大学と姉妹校提携
昭和58年4月18日 第四代学長和泉雄三教授就任
昭和58年12月10日
平成14年9月3日 韓国中部大学と姉妹校提携
平成14年12月10日 第七代学長小笠原 諭理事就任
教職課程中英語・高校英語認定
平成15年10月29日 北海道函館西高等学校（11月25
日）、北海道函館商業高等学校（10
月29日）と高大連携協定締結
小学校英語指導者認定団体登録
平成16年3月1日 入学定員減30名→20名
平成16年4月1日 英語国際ビジネス学科設置届出
平成17年1月19日 北海道知内高等学校と
高大連携協定締結
平成17年3月11日 南開大学浜海学院と姉妹校提携
平成17年10月7日 北海道八雲高等学校と
高大連携協定締結
平成18年1月14日 放送大学と単位互換協定締結
平成18年4月1日 キャリア開発センター開設

復興期

昭和44年3月16日 函館大学第二回卒業式挙行
昭和44年8月20日 震災復興校舎落成。
商品学実験室設置
昭和44年9月7日 震災復興校舎
落成記念式典
昭和45年5月11日 函館大学経営研究所開設
昭和45年12月20日 電子計算室・語学演習室始動
昭和46年12月3日 村田喜教授副学長就任。
三年度進級学生対象の
祝賀会開始

内部充実期

昭和48年11月3日 野又貞夫先生勲三等瑞宝章受章
昭和49年4月〜7月 市民への大学開放。
各種公開講座開講
昭和50年12月7日 創立十周年記念式典挙行

安定成長期

昭和51年10月5日 創立者・初代学長野又貞夫理事長
逝去。学園葬
昭和51年10月16日 第二代学長村田喜教授就任

鎮魂期

平成13年11月12日 新講義棟・図書館・音楽練習棟
竣工式・祝賀会開催
平成13年11月26日 チチエスター大学と姉妹校提携
平成13年11月27日 パーススバ大学と姉妹校提携

急増期

昭和62年6月15日 体育館・武道館・学生会館
新築落成祝賀会開催
平成元年12月10日 第六代学長河村博旨教授就任
平成4年4月 臨時的定員増300名とした
平成5年5月21日 新講義棟落成記念式典・
祝賀会開催
平成8年2月22日 ニーカッスル大学と姉妹校提携
平成9年5月29日 バラント大学と姉妹校提携
平成12年4月1日 恒常定員300名とした
平成12年12月12日 教職課程情報認定

急減期

平成13年4月1日 専攻熟制度開始。国際コミュニケーション、
シヨン、会計、IT、情報・商業教職、
ビジネス・アスリート
平成13年4月1日 ウォルバーハンプトン大学（11月22
日）・南開大学（10月19日）と姉妹校
提携

外部連携

平成13年11月12日 新講義棟・図書館・音楽練習棟
竣工式・祝賀会開催
平成13年11月26日 チチエスター大学と姉妹校提携
平成13年11月27日 パーススバ大学と姉妹校提携

学内再整備期

平成18年5月30日 青森県立青森商業高等学校と
高大連携協定締結
平成18年6月1日 放送大学函館学習室開設
平成18年12月10日 溝田春夫教授副学長就任
平成19年7月26日 北海道森高等学校と
高大連携協定締結
平成19年8月9日 溝田春夫教授学長職務代理者に就任
平成19年11月1日 第八代学長 溝田春夫教授就任
平成20年3月19日 日本高等教育評価機構
大学機関別認証評価認定
平成20年12月24日 教職課程中社会学、高校公民認定
平成21年1月30日 第二学生寮新築落成
平成22年4月1日 英語国際ビジネス学科募集停止。
三コース制導入。企業経営コース、
市場創造コース、英語国際コース
平成22年4月1日 入学定員減200名→150名
野又肇第一代理事長
旭日中綴章叙勲
平成22年4月29日 ピアサポートセンター開設
平成22年11月1日 北海道戸井高等学校と
高大連携協定締結
平成23年6月15日 入学定員減150名→120名。
ベイエリア・サテライト開設
平成25年4月1日 野又淳司常務理事副学長就任
平成26年4月1日

教育&オープンキャンパス

高評価の独自の教育システムと高い就職実績

本学の第一の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアプランなどを、さまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングと呼ばれる先進的な教授・学修手法を採用し、大手進学予備校河合塾による調査でも高評価を得てきました(『日本経済新聞』2011/2/21)。この手法による「商学実習」I・II(1・2年次)などでの、学生による地域研究や商品開発等のプロジェクトの取り組みが、新聞やNHKニュースなどによって数多く取り上げられ、注目を集めてきております。

昨年4月には、地域の企業・市民、観光客との協働的な研究・交流の場として、市内の元町エリアに函館大学ベイエリア・サテライト(ココカフェ)を開設し、より積極的に学

生の研究活動をサポートする体制になりました。

本学は、『週刊ダイヤモンド』(2011/12/1)の特集号で、「就職に強い大学全国総合ランキング」で全国総合98位を獲得しました。従来より就職のいい大学という評価をいただいていたが、この順位は、道内限定では第3位、道内の私大ではトップというもので、本学の就職実績の高さを裏付けているものとなっています。

このように、本学のすぐれた教育システムと高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。



入試部長・教授
田中 浩司

オープンキャンパス開催のほか、進学相談会にも参加

今年度は、本学主催の受験生向けのイベントとして、2回(7/26と9/27)の本学でのオープンキャンパスと、出前型のミニオープンキャンパス(3回)などを開催します。

オープンキャンパス(本学会場)では、本学の教育や就職支援の特色、学費・奨学金の説明、商学系・英語系に分かれたミニ講義、施設見学などのプログラムがあり、本学の最新情報を聞くことができます。当日は、受験生の皆さんを在学生がご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くこともできます。このほか、ご希望の方には、当日学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」もあります。



当日同伴された保護者の皆様には、受験生の皆さんとは別に、実際の時間割・学年暦からみた4年間の大学生生活のイメージ、学費のことなどについて情報提供をいたします。個別相談にも対応いたしますので、お気軽に担当者にお声掛けください。

ミニオープンキャンパスは、札幌(6/28)、青森(7/5)と函館市内のベイエリア・サテライト(8/30)を会場に、大学紹介や入試要項の説明、在学生によるプレゼンテーションなどを予定しています(会場により若干内容が異なりますので、詳細はお問い合わせください)。このほか、10/19(日曜日・大学祭)には本学で入試相談会(申込不要・入退場自由)を開催します。

こうした本学主催のオープンキャンパスなどに都合がつかない方には、函館、青森、岩手、秋田などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会に本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場・日時などの詳細は、本学HPをご覧くださいか、本学入試課に電話でお尋ねください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の目で確かめ、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート。本学で思う存分、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。

商学実習I・IIテーマ一覧

平成25年度(昨年度) 商学実習I テーマ一覧

若松 裕之 教授

- 「湯の川温泉の活性化」
- 相田 昂陽、秋山 瑞貴、阿保 孝彦
- 「函館の交通マナーの向上に向けて」
- 五十嵐 幸那、石井 大智、池田 友幸
- 「マックとラッビの500円ハンバーガーの比較研究」
- 稲村 舞、板倉 明音、江良 晃
- 「北海道新幹線の観光への効果」
- 太田 泰雅、扇 拓也、大松 勇士、扇谷 亮

田中 浩司 教授

- 「音楽による函館の活性化」
- 玉谷 竜馬、寺沢 啓太、寺田 一生、奈良 和
- 「大学生の購買行動に関する研究—お気に入り入りは店舗で買うか、ネットで買うか—」
- 成田 賢伍、西村 卓、沼上 翔太、萩野 佑真、長谷川 太祐
- 「大学生の寄付金付き商品に対する意識」
- 根子 七海、花田 央城、藤巻 里菜、船木 紗夜子

寺田 隆至 教授

- 「GLAYライブ時のラッビ来店客の調査—ラッビの成功要因を探る—」
- 菅又 めぐみ、佐々木 優、澤田 遠太、齊藤 翔平、昆 優悟
- 「GLAYライブ時の観光アンケート調査—函館への評価と課題—」
- 今 孝明、鈴木 恵理、高谷 直樹
- 「ラッビは何故皆に愛されるのか?—性別・年齢層別の視点から—」
- 酒井 光、坂本 郁香、東 麗奈、佐々木 龍也

津金 孝行 准教授

- 「旧相馬邸LEDライトアップ実証試験に関する考察」
- 柴野 翔太郎、白川 純靖、菅野 直樹、鈴木 聖、相馬 佑希
- 「コンビニエンスストアの新機能追加に関する研究」
- 田坂 幸祐、田中 美由紀、玉澤 知樹、手塚 美穂
- 「函館のカジノ建設に関する研究」
- 相馬 悠吾、曾我部 雅也、高 浩輝、田川 菜菜、竹内 裕紀

大橋 美幸 准教授

- 「外国人観光客の朝市に対する意識アンケート」
- 松谷 友梨亜、濱田 拓実、干山 貴大、三浦 浩平、細坪 信人
- 「地域住民の地域交流に対する意識調査」
- 星川 有由、日野 智仁
- 「パリアフリーと観光」
- 足田 健太、古屋 はるか、深川 大陸、平野 功基
- 「函館山ロープウェイに関する調査」
- 宮 万里子、林 魁人、平川 賢也

西村 淳 准教授

- 「函館観光についてのアンケート(仮題)」
- 國安 正矩、小林 一樹、小井 和真、工藤 光貴、工藤 凜
- 「函館の飲食店についてのアンケート(仮題)」
- 越田 一郎、小坂 尚嗣、木下 愛理、熊谷 裕尊
- 「北海道新幹線開業に関するアンケート(仮題)」
- 木田 慧、川村 怜奈、北島 匡貴、黒坂 健太、熊谷 祐哉

佐藤 元治 准教授

- 「WAKOに対する意識調査」
- 小原 拓也、岡田 佳大、岡部 志織、柏谷 香介、金田 寧々
- 「ホテル調査アンケート」
- 河辺 宏規、菅野 竜平、小形 真人、加藤 悠介
- 「中島廉売に関するアンケート」
- 岡山 真也、小倉 圭晶、小山内 唯、小田桐 優作、亀本 佑也

隅田 孝 准教授

- 「高校生への就職に関するアンケート調査」
- 三浦 友尋、宮城 昇、宮永 優太郎、棟方 和磨、村上 穂乃花
- 「大学生のラッキーピエロに対するイメージ調査」
- 矢口 太基、柳谷 友香、山方 政信、山口 健太、山下 悠真
- 「函館競馬場の利用者の意識調査」
- 山田 慈美、与坂 隼輔、吉田 雅貴、和多田 恵也、王 钰、衛 薇

平成25年度(昨年度) 商学実習IIテーマ一覧

若松 裕之 教授

- 「函館の活性化につながる商品開発」
- 松川 紗季、松本 理歩
- 「GLAYライブと函館の経済効果」
- 進藤 詠亮、吉田 和央、吉田 和生
- 「学生のアルバイトに関する意識調査」
- 梅木 雅広、川村 和暉、長谷川 敦士、山崎 恵汰、工藤 大
- 「函館の緑地公園の活性化」
- 山田 雄太

田中 浩司 教授

- 「特別な日に何を食べるかアンケート調査」
- 岩橋 昂樹、嵯峨 智仁、佐藤 大樹、長澤 龍巳、羽貝 広大
- 「函館空港の利用状況と訴求力アップに関する研究」
- 厚谷 恵理奈、蝦名 美由紀、岸田 彩、新岡 嵐士
- 「北海道新幹線開業で函館発着の人の流れはどう変わるか」
- 井川 一成、上野 那三花、鈴木 雅人、中川 美生、名和 悠司

津金 孝行 准教授

- 「若者のホテル利用促進に関する研究」
- 清野 晃仁、田上 貴裕、平田 晃久
- 「函館の郷土料理活用に関する研究」
- 関 琢也、高見 勝也、武部 翔太、田中 克史
- 「総合的食育旅行プランの開発」
- 田上 啓太、瀧澤 恵美、永井 将人

大橋 美幸 准教授

- 「就職活動と採用活動に関する調査」
- 平野 瞳、細間 芽生、吉田 奈央
- 「ひな祭りイベントアンケート調査」
- 松山 翼、西館 圭介、坂井田 健介、鹿子島 京美
- 「Jバスの認知度及び利用状況調査」
- 金久保 太郎、樋口 将俊、濱村 龍之介、三ヶ田 隼人
- 「中島廉売、五稜郭商店街における通行量調査」
- 中澤 さおり、廣崎 蓮海、西山 佳登、平澤 大地、岩谷 裕樹

佐藤 元治 准教授

- 「函館観光活性化の可能性」
- 池田 伸哉、綱川 雄太、根本 美久、藤塚 早紀
- 「高校生が考える進路」
- 船谷 美咲、石井 優悠、石谷 大輔、奈良岡 智明、森田 怜
- 「お土産による函館山ロープウェイの活性化」
- 壺井 義明、本村 麻由香、松村 架那、山内 武、若山 翔哉

西村 淳 准教授

- 「仮題 函館のおもてなしについて(1)」
- 石井 葵、大倉 育士、田中 芽生、鶴巻 駿、山松 敬旗
- 「仮題 北海道新幹線開通の函館地域経済への影響について」
- 大森 祐基、長内 駿也、佐々木 優希、柴田 浩二、杉田 航
- 「仮題 函館のおもてなしについて(2)」
- 東 麗奈、小川 遼、川口 翔平、小林 孝嗣、松本 芳世

中井 郷之 専任講師

- 「函館街歩き」
- 金澤 裕美、佐々木 孝太、佐々木 翔洋、志村 幸穂、杉本 諒
- 「中島廉売調査」
- 坂野 敬介、佐藤 啓太、佐藤 敏貴、高瀬 健太、古河 一磨、山田 勇斗

就職部

平成25年度就職実績

就職に向けた様々な事業を展開し、高い就職実績を実現



就職部長兼
キャリア開発センター長
教授 永盛 恒男

平成二十五年度も企業が学生を厳選するという傾向が続いていました。「良い人材がいれば採用を考える」という状況の中にあつて、本学の平成二十五年度の就職実績は、前年度を上回る九十六・七％という高い数字を達成することができました。

しかし、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学側は、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められるでしょう。そこで本学では、就職に向けた様々な事業を展開しています。

まず二つ目は、学生への実践教育です。十一月に企業の人事担当者招いた「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイント

トや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を、丸二日かけて行っています。

二つ目は就職担当教職員が学生に向けて行う報告会です。年間約百社の企業訪問を行い、収集した情報を就職ガイダンスの中で報告することで学生の就職活動を展開しやすくしております。

そして三つ目が就職講座の開催です。一年生には正課授業「キャリアプランニング」、二年生は「キャリアガイダンス」、三年生には「就職ガイダンス」をそれぞれ年十五回実施しております。その中には職業・職種セミナーとして、さまざまな企業の第一線で活躍している本学OBを

招き、「仕事とは？働くとは？」ということなのかを話していただきます。さらに例年十二月に開催している業界研究会では、五十社以上の各企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に事業内容や採用情報などの話を聞く有意義な場も設けています。

また、三年次の前半にはゼミの担当教員が、学生二人一人に対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書、エントリーシートの書き方指導なども随時行っています。

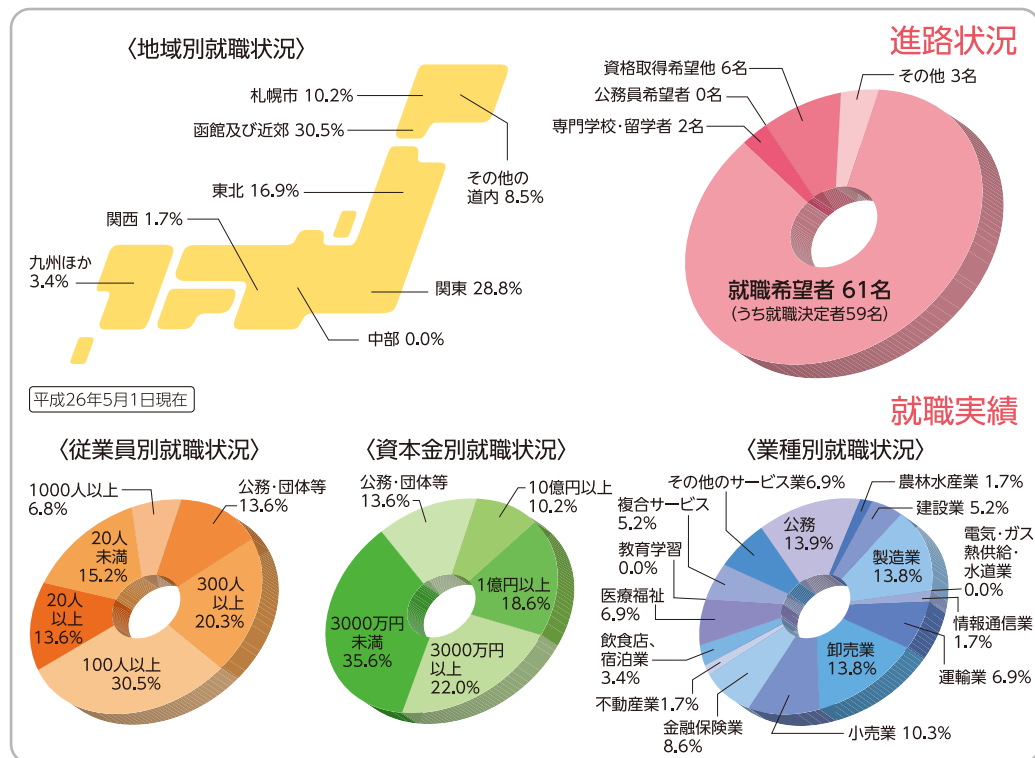
キャリア開発センターでは、就職に関する資料の収集、開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような適切な指導・助言を行っています。社会情勢に対応しながら、学生の「なりたいたい自分」を応援、二助となるよう、今後もスタッフ一同、各種事業に取り組んでいきます。

TOPICS

昨年度の実績を上回ることができたのも、学生と教職員の努力と各企業のご支援の結果であると考えております。

主な公務員先

- 函館市消防本部
- 防衛省・自衛隊
- 法務省・刑務官
- 警視庁
- 北海道警察本部
- 秋田県警察本部



社会人として伝えられること



(株)東京めいらく勤務
小山内 勝哉さん
商学科企業経営コース
(青森県五所川原農林高校出身)

私は企業に入社し、会社の伝統や挨拶など、基本的なことを勉強させて頂いています。挨拶は社会人として重要な事です。特にセールスマンの私は、お客様との会話がとても大切になってきます。しかし、どんな人でも挨拶が出来なくては会話をすることが困難になります。そこで、在学中に挨拶の練習をしておくと思いいます。校内で教授や一般の方などと出会った時などに、自分から挨拶を試みましょう。

また、社会に出ると挨拶だけでなく、言葉使いも重要になり、言葉ひとつでガラリと印象が変わってしまいます。私は自分から笑顔で元気に挨拶をするという基本的な事を日々心掛けています。

学生の時だけでなく、社会人になっても一日一日が勉強の毎日です。残りの大学生活を有意義に過ごし、一日一日を大切に下さい。

今年巣立った がんばる 社会人一年生



今春から新社会人として新たな歩を踏み出した先輩たち。自身が希望した舞台に立ち、新たなフィールドで活躍しています。

自分のやりたいことを見つけ



青森県信用組合
大湊支店勤務
嵯峨 祥平さん
商学科企業経営コース
(青森県立八戸商業高校出身)

私は青森県信用組合大湊支店の得意先係を担当しています。お客様の所へ直接訪問して、いろいろな取引をしています。

本来、新入社員はテラーなどの内勤で知識をつけてから得意先係などに配属されるのが普通です。お客様に迷惑をかけてしまうこともあります。しかし、お客様から「本当にありがとう、またよろしくね」などの言葉をかけていただく、また頑張ろうという気持ちになってきます。

信用組合は、地域の皆様に支えられて営業しています。私は、地元に貢献したいという思いから入組しました。働くうえでそういったやりがいがある、自分のやりたいことがある、ということはとても大切なことだと思います。皆様もそういったことを頭に入れて、これから就職活動をしていくと良いかもしれません。

インターンシップ体験から学んだこと

インターンシップ体験



商学科企業経営コース4年
木村 茜さん
(三沢商業高等学校出身)

私は函館新都市病院の医療事務課で研修してきました。仕事内容は、診察券の発行やカルテ作り、患者さんの病気にする判子押し、受付、会計など、6日間で大まかですが一通りの仕事を教えていただきました。まったく医療の知識が無かったので、薬の種類や病気の種類を覚えるのに、家へ帰ってから勉強の毎日でした。

その中で感じたことは、社会人になると大学以上に勉強しなければならないということ。また、事務課へ配属になったのですが、患者さんと関わる機会がとても多く、接客アルバイトをしてきてよかったと思いました。大学生活で続けてきたサークル活動の経験やアルバイトの経験、授業をしっかり受けることなど当たり前なこ

とですが、社会人になるうえで役立つことも多く、無駄なことなんて何もないと実感しました。医療事務は元々、就職希望の職種ではなかったのですが、今まで体験したことのない職種だったので、視野が広がったと共に、社会人になるまでにやっておかなければならないことも見つけられたので、自分を見つめ直すいい機会になったと思います。

インターンシップでは、就きたい職種と違う企業でも得るものが多いため、必ず行ってよかったと感じることが出来ます。また、仕事内容や責任の重さなどはアルバイトの感覚と全く違うので、絶対学生時代に経験しておくべきだと思います。

秋田県秋田中央高等学校



嵯峨 智仁さん
(3年)

私の母校である秋田中央高校は、来年初立九十五周年を迎える伝統のある高校です。また、現在校舎の改修工事にも取りかかっており、新校舎は平成二十九年に完成する予定です。

力強いものとなりました。また、文武両道がとてできている高校で、運動部、文化部共に盛んで、多くの部活動が好成績を残しています。私も在学時には野球部に所属しており、キャプテンとして夏の甲子園予選では準優勝という成績を残すことができました。

秋田県立秋田中央高等学校

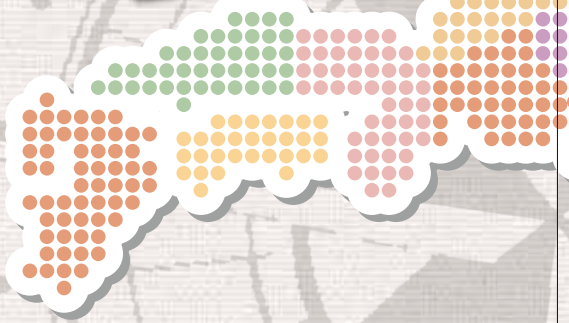
創立:大正9年
秋田県秋田市土崎港南3丁目2-78
TEL.(018)845-0921 FAX.(018)846-3499

理想を掲げて躍進する生徒の育成に尽力

校訓「自主 友愛 躍進」のもと、文武両道を指導理念に将来を逞しく生き抜く人材育成に取り組んでいる。2013年から5年間、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け、理数教育の充実によって、未来を担う科学技術系の人材育成をねらいに各事業を展開。目指す生き方として「Make your story(あなたの物語を作りなさい)」を生徒に問いかけている。

出身校紹介

北から南から



北海道
帯広柏葉
高等学校

青森県
八戸商業
高等学校

秋田県
秋田中央
高等学校

群馬県
富岡
高等学校

帯広柏葉高等学校

創立:大正12年
北海道帯広市東5条南1丁目1
TEL.(0155)23-5897 FAX.(0155)23-8796

創造的に挑戦する人材を育成していく

昨年度、全日制が90周年、定時制が60周年を迎えた。教職員が教育活動を通じて生徒の興味・関心を触発し、生徒一人ひとりが自分の将来を見据え、a creative challenger(創造的に挑戦する人(生徒))になることを念頭にいた学校経営に努めている。学習は高い水準を維持し、部活動においても全道・全国大会で活躍する一方、地域活動等に参加・貢献している。

十勝管内で一番の進学実績がある柏葉高校ですが、学業だけでなく学校行事や部活動にも精一杯取り組む「文武両道」を目標としているのが特徴です。なかでも年に二度の学校行事である「柏

葉祭」にはそれが最もよく表れています。柏葉祭ではクラスごとでなく、二年生から三年生までの縦割りのプロジェクトが作られ、応援や衣装、展示など様々な種目で競い合います。三年生は高校生活で最後の行事であるとともに、二年生をまとめ上げなければならぬのでとても大変ですが、最後の順位発表では優勝した、しないに関わらず多くの人が感極まって泣いてしまうほどの盛り上がりを見せます。また同学年、他学年とも交

流を深めることができ、上級生のリーダーシップを育てることのできる素晴らしい機会です。さらに部活動にも力を入れていきます。特に新聞局や放送局は全国大会の常連で、書道部はコンクールでの活躍の他に地域のお祭りやイベントでのパフォーマンスでも有名です。当時、私は放送局に所属していて、テレビドラマやCM制作をしていました。大変ながらも、顧問の先生や先輩、友達、後輩と力を合わせて一つのものを作り上げる楽しさを知ることができました。

北海道帯広柏葉高等学校



岡部 志織さん
(2年)

私は先生も生徒もとても自由でのびのびとした柏葉高校で様々な人と出会い、過ごせたことをとても嬉しく思います。

私は先生も生徒もとても自由でのびのびとした柏葉高校で様々な人と出会い、過ごせたことをとても嬉しく思います。

青森県八戸商業高等学校



岡田 佳大さん
(2年)

八戸商業高校は二〇二二年に創立八十五周年を迎え、今年八十七年を迎えた伝統ある学校です。校

訓は「自主・明朗・規律」。部活動は吹奏楽が有名で、一年に二度公民館で定期演奏会を行い、その演奏会は全国レベルに達すると言われています。

そんな八戸商業高校には商業科・国際経済科・情報処理科の三つの科があります。商業科は簿記を中心に勉強をしていく科です。そして国際経済科では、修学旅行にハワイへ行き、実践的な英語を勉強する科。最後に、情報処理科は、エクセルやワードを基礎から勉強する科です。

青森県立八戸商業高等学校

創立:昭和2年
青森県八戸市大字十日市字塚ノ下3-1
TEL.(0178)96-5001 FAX.(0178)96-6200

有能な産業人の育成を目指し、積極的な学習に取り組む

商業科とともに、平成4年には国際経済科、平成5年には情報処理科を設置。「国際化・情報化時代に対応する創造力豊かで、知・徳・体の調和のとれた人間の育成」及び「社会の有為な形成者として必要な知識・技能を修得させ、心身ともに健康な人間としての資質を養成する」を教育目標に定め、普通教科及び専門教科の学習の深化を図っている。

二校しかなく、八戸商業高校はその内の一校なのです。私は函館大学に入学して、高校のときに取得できなかった資格取得に励んでいます。卒業してから何をしたいのかというのは、漠然としたものしか浮かんでいません。しかし、高校の時の経験や、これからまだ続く大学生活を仕事に生かしたいと思っています。

群馬県富岡高等学校



岡田 佳大さん
(2年)

私の母校である群馬県立富岡高校は、今年で創立百十七周年を迎える県下有数の進学校です。設置学科は普通科のみですが、授業の中には自分たちで選択して学習するものもあり、幅広い分野の学習をすることができます。

富岡高校の校訓は「質実剛健」「文武両道」「自主自立」の三つで、生徒全員が校訓の実現のために日々勉学に励んでいます。また、校訓にもあるように、学業のみならず部活動も盛んな学校であり、その中でもハンドボール部は全国的にも有名で、県内では十八連覇中です。私もハンドボール部出身で、インターハイや国民体育大会などに出場して、と

群馬県立富岡高等学校

創立:明治30年
群馬県富岡市七日市1425-1
TEL.(0274)63-0053 FAX.(0274)62-2745

「自主的に自立」できる生徒を育成

知・徳・体の調和のとれた人材を育成するため、よき伝統と校風を継承しながら研鑽を積み、生徒の実態や環境の変化に対応できる組織的な教育活動を行い、生徒、保護者および県民に信頼される学校づくりに努めている。全日制と定時制があり、生徒が将来的に社会で貢献できる人材となるため、在学中に「自主的に自立」できる姿勢が身に付くよう、教職員が一丸となって努めている。

どんな行事でも必ず大成功を収めることができました。高校では部活に勉強にと、とても忙しいものですが、心から信頼できる仲間や、勉強以外のこともたくさん先生方から教えてくださったユニークな先生方に支えられ、とても楽しい三年間でした。社会の厳しさや人間関係の大切さ、一人の人間としての責任など多くのことを教えてくれる、そんな学校であると私は思います。

でも貴重な経験をさせてもらいました。また、男子校ということもあり、生徒同士の仲は非常によく、年間行事などでは自然と団結力が生まれ、



FROM THE WORLD

函館大学では学生の海外留学を推進するだけでなく、毎年、ハワイパシフィック大学と中国・南開大学浜海学院からの留学生を本学に受け入れています。昨年度はハワイから一名、今年度は中国から三名の留学生が新たに函館大学にやってきました。

日本語や日本の文化を学ぶため、アメリカ(ハワイ)と中国(天津)から留学。

アメリカ ハワイパシフィック大学からの 留学生はスウェーデン人。 ヨハンソン・ヨハンナ・リアさん

たくさんの人とふれあい
日本語を勉強。

昨年九月から今年の夏まで、約一年にわたってハワイパシフィック大学から函館大学に留学したヨハンナさん。そんな彼女はスウェーデン出身ながら、ハワイの大学へと進学しました。その理由とは、「海洋生物学に興味があり、いろいろな生物の勉強をしたくてハワイの大学へ行くことを決めました」と話します。



海洋生物学を学ぶためハワイの大学へ進学し、日本語を学ぶため本学へ留学したヨハンナさん。



海洋に関わる研究者を目指し、日本でも頑張っています。

そして日本へ留学したのは、高校の頃、日本の文化や歴史に興味を持ち始めたことからだ。そう、「高校生の時、私の二人の友人が日本に留学しました。その経験をいろいろと聞いた時に、私も日本へ行きたいと思っただけです。大学へ入った時に日本へ留学できる制度があると聞き、留学を決めたヨハンナさんは、日本のマンガも大好き。少年誌に連載されていたマンガを弟から勧められ、よく読んでいたそうです。

函館大学での日本語の授業は一日二コマで週五回。そのうち一回は中国からの留学生と一緒に授業を受けていることから、日本人の学生だけでなく、同じ留学生とも友達になれたのだとか。日本語の勉強は高校生の時からしていたというヨハンナさん。授業

以外では宿題にとられる時間もある中、日本での生活を楽しんでいきます。「友達と一緒に赤レンガ倉庫群や五稜郭へも行きました。それから、ちょっと足を伸ばして大沼公園へも行ってきましたよ」。

また、英会話教室でアルバイトもしているそうです。「毎週二回、大人と子どもに教えています。教えるのは難しいけれど、いい経験になりました」と笑顔を見せてくれました。そして、たくさんの人とふれあうことで、日本のことや日本語を勉強する良い機会になっているそうです。趣味はラグビー。スウェーデン



「日本の学生、そして中国からの留学生とも友達になりました」と話すヨハンナさん。

やハワイでもやっていたそうです。そのガッツで勉強も頑張っているヨハンナさん。夢に向けて学ぶ日々はこれからも続きます。

ヨハンナさんの夢

大学を卒業したら、海の研究者になりたいです。世界のいろいろな海を研究したいので、これから他の外国語もいろいろと話せるように勉強していきたいと思っています。今、母国語と英語のほかに、日本語とスペイン語を少し話せるのですが、フランス語、中国語も話せるように頑張っていきたいですね。

中国

目標の達成や夢を叶えるため、三人の若者が 中国・南開大学浜海学院から留学。

王少瑾(オウ・シヨウキン)さん、唐仲(トウ・チュウジン)さん、李龍輝(リ・リュウキ)さん

卒業後の目標は大学院への進学。
日本そして中国で将来の活躍を誓います。



まずは日本の大学院に入るために勉強に取り組む(左から)唐仲さん、王少瑾さん、李龍輝さん。

今年四月、中国・南開大学浜海学院から留学生として函館大学にやってきた王少瑾さん、唐仲さん、李龍輝さんの三人。留学期間である二年間、函館大学の学生と一緒に多くのことを学んでいきます。

その三人が留学を決めた理由は何だったのでしょうか。「日本の大学院へ入るためです」と、力強く語った唐さん。方、王さんは「中国の大学では日本語を専攻し、もうと日本語の勉強がしたかった」と話します。そして李さんは「日本の文化が好きだから」。



「北海道が好きだから、北海道で暮らしたい」と話す王少瑾さん。

「頑張つて日本で就職してほしい」と言っていたのだとか。

唐さんの専攻は経営学です。函館大学では経済やマーケティングなどを学んでいます。そんな中、一番興味がある授業は商学実習なのだとか。「座学以外に、外に出て活動するのが楽しい。中国ではそういう授業がないので、すごく興味があります」と唐さん。

そして王さんの専攻も同じく経営学。「経営史やマクロ経済学などを学んでいます。商学実習とゼミが楽しい。ゼミではいろんなデータを分析するのが好きです」。



「会計士として活躍したい」と夢語る李龍輝さん。

異国へ行くということでも応援してくれたと話す三人。李さんの両親は、

と、目を輝かせます。また、李さんが専攻するのは簿記。会計学や経済学、マクロ経済学などを学んでいます。「計算が好きなので、やっぱり会計学が一番興味があります。将来は会計士になりたい」と夢を語ってくれました。

将来の夢は?

王さん 北海道が好きだから、北海道にある大学院に入って、有名な会社で経営に関する仕事がしたい。両親と一緒に北海道で暮らすのが夢です。

唐さん 大学院を卒業したら中国に戻るつもりです。文化や教育に興味があるから、職業は教師とかがいいかな?そして中国へ戻ったら好きな人と結婚して、子どもを2人産む。

李さん 会計事務所就職して、会計士として活躍したいです。そして、中国にいる両親を日本に呼んで、一緒に日本ですっきり暮らしていきたいと思っています。

たら、三人ともアルバイトをしたいと考え中。再来年の三月までの二年間、先輩たちに負けないよう、函館大学で夢を実現するために頑張ります。

大ing

体育系、文化系とも、
部員みんなが情熱を持って
クラブ活動を謳歌。
内外に函大の元気を発信します。

ハンドボール部

監督、選手がU-22 男子日本代表チームで躍動

北海道学生ハンドボールリーグで連勝記録を伸ばし続ける函大ハンドボール部。今年六月末に香港で開催された東アジアU-22選手権では、同部の松喜美夫監督と三年生の鹿子島京美(たかふみ)くんが、U-22男子日本代表チームの監督と選手として、海外を相手に戦ってきました。



「U-22の下世代のためにも、ここでしっかりした土台を作っていかなければならない」と話す松監督。

出発前、「リオを目指しながら、その先の東京オリンピックに向けて、選手だけでなく、若手の指導者を育成していきたい」と思っていた松監督。選手たちと話していた松監督。選手たちには、次に行われる世界学生選手権に選ばれなかった悔しさをバネに、意地と夢を持ってやっついこうと鼓舞したそうです。この年代の選手がオリンピックで活躍する姿を見るのが今から楽しみです。

そして、「跳ぶ、投げる、走る、いろんな技術を求められるのがハンドボールの面白さ」と話す鹿子島くんは、初めてとなる海外チームとの戦いに、世界にはどんなハンドボールがあるのか

連勝街道を突き進む函大ハンドボール部。



「代表でもいつも通りのプレーをしたい」と話す鹿子島京美くん。

を見て、体験することを楽しみにしていました。「いいところを吸収して、大学に持って帰れたらいいと思います。目標はもちろん優勝です」と、力強く語ってくれました。これからの日本ハンドボール界のため、大会で若い力が躍動します。

硬式野球部

全国大会出場を目指し、 チーム二丸となつて。

「強制的にやらされるのではなく、自主性を大切にしながら楽しく練習に取り組んでいます」と、部の雰囲気話してくれたキャプテンの藤本 剛大くん(四年生)。練習では自主練の時間を設けてもらったり、キャプテンや副キャプテン、学生コーチの要望も監督、コーチが取り入れてくれるそうです。

一年生の時からレギュラーとして活躍し、昨年の大会終了後にキャプテンに指名された藤本くん。「学生コーチも部員も、みんなが一生懸命にやっているの



キャプテン、そして一番バッターとしてチームを引っ張る藤本 剛大くん。

で、周りに助けられています」。毎年、北海道六大学野球で優勝争いを繰り広げている同部の今年も、「最後までやりきる」を意識しているとのこと。「例えば内野ゴロでアウトになりそうでも、最後までスピードを落とさず走ったり、ダッシュ練習でもゴールの線を超えるまでしっかり走り切るなど、練習から必死さを持ってプレーすることを心がけています」。



チーム一丸となって目標に向かう部員たち。

目標はもちろん全国大会への出場。その目標に向かいながら、自分たちの代で残せるもの

を次の世代にも伝えていきたいという藤本くんの夢は、プロ野球選手になること。「難しい世界であることは分かっています。でもこの先、何かのきっかけで覚醒することを自分自身期待して頑張りたいですね」。函大硬式野球部のこれからの快進撃に期待しましょう。

弁論部

就職活動や社会人になって 役立つことが身に付く。

今年で十五周年を迎える弁論部。『弁論』と聞くと、部員はちよつと固い人の集まりというイメージを持つ人がいるかもしれませんが、「実際はそんなことはありません」と話す部長の力石 真嘉くん(四年生)。「もちろん、やる時はしっかりやりますが、普段はみんな楽しく活動しています」とアピールします。

そんな同部の活動目的は、人前で自信を持って、堂々と話せる力を身に付けること。「今後、就職活動をはじめ、社会人になったら自分の考えをしっかりと話せることが求められます。僕も弁論部に入ってから、人前で



活動を体験した時に、「自分を変えられる」と思っ入部を決めたと話す部長の力石 真嘉くん。



年一回、大学内の大教室を使って「弁論大会」を行っています。

話すことに自信が持てるようになりました」。

活動は週一回。緊張を和らげるための呼吸法や発声練習を行っています。弁論大会が近づくと、部員が自主的に集まって、お互いに原稿を読み合ったり練習も行っているそうです。現在、部員は四名ですが、

新入部員はいつでも大歓迎とのこと。人前で話すことが苦手、積極性を身につけたいなど、自分を変えたいと思っている人は、思い切って入部してみてください。

バレーボール同好会

念願叶い同好会を発足。楽しくを モットーに、目指すは大会出場。

昨年11月に発足したばかりのバレーボール同好会。二年生の時から発足を働きかけてきたのが、部長を務める藤塚 早紀さん(三年生)です。「私以外にもバレーボール部をつくりたいと思っていた人がいました。さらに、体育の時間でバレーボールが盛り上がりつつあるので、やりたいと言ってくれた人がいたんです」。

二年近くの時をかけて誕生したバレーボール同好会には現在、十二名の部員がいます。「みんなバイトをしているので、練習は週一〜二回の夜二時間、体育館を使って行っています」。



部員には函大生のほか、函短の学生もいます。

部員には経験者が五名いることから、その人たちが中心となつて他の部員を指導し、練習メニューも自分たちで考えているとのこと。そんな同部のモットーは、「楽しく」。大学で部活をやりたいと思っ入部した人たち

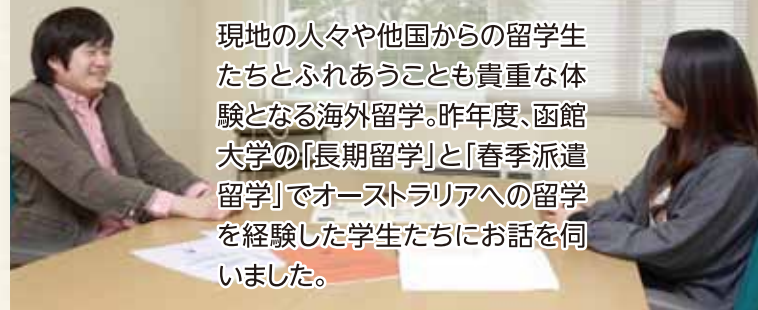


「部活動以外でも部員の仲が良く、練習後は一緒にご飯を食へに行ったりしています」と話す部長の藤塚 早紀さん。

が集まっているため、喜びを噛み締めながら楽しく練習しています。今後は大会に出場することが目標。「みんなうまくなつてきているので、今の私たちの実力を試してみたいですね」。

海外留学

現地の人々や他国からの留学生たちとふれあうことも貴重な体験となる海外留学。昨年度、函館大学の「長期留学」と「春季派遣留学」でオーストラリアへの留学を経験した学生たちにお話を伺いました。



「長期留学は学部授業を受けられるのが大きかった」と話すおふたり。

られるところが違いますよね」
山本「それは大きいよね。現地の人と一緒に勉強ができる。先生が話すスピードもランゲージセンターで英語を勉強していたときより断然速いしね」
鈴木「大学だと英語が話せる、聞けるのが当たり前ですかからね」
山本「試験があったのも大きかったかな？」

鈴木「そうですね。短期はどちらかと言えば旅行感覚に似たところがあつたけど、長期は学部の学生として入っていきますからね」

ホストファミリーとの生活

鈴木「山本さんのところって、いろ

「長期留学」体験者対談

英語は「コミュニケーションツールのひとつ」。

短期と長期留学の違い

鈴木「私たちは前の年に短期留学を経験してから今回は長期留学に挑戦しましたけど、長期だと留学先大学の学部授業を受け



鈴木 亜衣さん(4年生)



山本 大智くん(4年生)

から、コミュニケーションも深まるんだよね」
長期留学を体験して感じたこと
鈴木「短期の時は出来なかったけど、今回はバイトもしたんですけど、今回はバイトもしたんですけど、お客さんとの距離も近くて、あれは貴重な体験でした」
山本「オーストラリアっていろんな国の人がいる、コミュニケーションも多いよね。そのコミュニケーションに参加して会話することで、自分の語学力を確認できたし、知らないことを見つかりやすかったな」

鈴木「積極的になりますよね。というか、せつかくそこにいるんだから、ならなきゃ楽しくないですもんね。山本さんって、海外にいたときのほうが社交的でしたよ」
山本「そうだった？それは向こうの雰囲気の違いだったのかもね」
鈴木「英語はひとつのコミュニケーションツール。会話をしている、やっぱり人と人の付き合いって大事だなって感じましたね」

「春季派遣留学」体験者座談会

語学以外に学ぶことも多い貴重な経験

留学をして感じたことは？

佐藤「やっぱり、自分の学力が全然足りてないことを実感したよね。基礎的なところまでできてなくて、授業中に直されたものな」
山田「それは確かに。あと、語学以外に他の国や人のことを知ることができたのが良かった。コミュニケーション能力は上がったかな」

木下「私、行く前に親に協力してもらって英会話の練習をしていたんだけど、やっぱり外国人とのふれあいは全然違うなと感じましたね」



木下 愛理さん(2年生)

Campus Report

学生たちの「いま」を

リアルレポート



佐藤 啓太くん(3年生)

ホストファミリーとの思い出は？

木下「動物園に行ったり、帰る前の日にはビーチに行つて外食したり、ホストファミリーと出かける機会は多かったですね。でも、一緒にテレビを観ながらのコミュニケーションとか、当たり前の時間を過ごしたのが一番の思い出かな」
山田「僕のところも一緒に出かけることが多かったよ。向こうは子どもがいなかったから、自分が息子になったような気分だった。二人はラブラブカップルだったしね」



山田 勇斗くん(3年生)



次は長期留学にも挑戦してみたいと話すみなさん。

佐藤「僕はホストファミリーより山田と行動することのほうが多かったもんな」
木下「そうだったの？何かさみしいね(笑)」
今後、この経験をどのように生かしていきたいですか？
佐藤「もっと英語力を向上させて、海外でパーソナルトレーナーとして働きたいな」
山田「この経験は就職活動などにも生かせるよね。留学によって、いろんなことに挑戦したいという気持ちも湧いてきた」
木下「私は英語教師や通訳、または外国で日本語を教えるような仕事をしたいと思うてるから、もし行けるなら、今度は長期の留学もしたいな」



これからどんなイベントを企画してくれるのが楽しいかな実行委員会メンバーのみなさん。
 佐藤 啓太くん(4年生) 手塚 美穂さん(2年生) 岡部 志織さん(2年生) 志村 幸博さん(3年生) 田川 菜奈さん(2年生)

イベント実行委員会

新入生歓迎イベントやクリスマスパーティーなど、学生生活を楽しくするイベントを企画

どんなイベントを企画・実施しているのですか？

佐藤「まずは四月に行う新入生歓迎イベントです。さらに、昨年は十二月にクリスマスパーティーを企画しました。今年はさらにバーベキューやかるた大会、流しそうめんなど、学生に楽しんでもらえる企画を考えています」

どんな思いで企画・運営に携わっていきたくですか？
田川「大切にしているのは、参加者に楽しんでもらいたいという気持ち。そのためには、自分も楽しまなきゃダメだね」
岡部「自分が面白いと思わなければ、他の人も楽しんでは思ってくれない。だから、自分が楽しんでいれることを伝えることも大切なかな」
手塚「新歓イベントは、学生は全員参加になるけど、その他は自分たちが呼ばないと来てくれないじゃない。人が集まってくる内容のイベントを考えていきたいよね」
志村「私の場合、今年は佐藤先

輩がいるけど、来年は一番上の学年になってしまうのが心配」
佐藤「おいおい、頑張つてよ(笑)。みんなが言った通り、参加者に楽しんでもらえるイベントはもちろん、このメンバーだからできることも考えていきたいよね」
イベントの企画・実施を体験した感想は？
田川「終わつてから、改善点や反省点が必ず出るので、それを次に生かして楽しみのレベルを上げていきたい」
志村「そうだね。イベントの回数もまだ浅いから、百点満点はとれない。良い点も悪い点も後輩に伝えていって、今回より次とやっていこう」
岡部「事前に入念にやっていると、当日は何らかのハプニングが起きますからね。そんな時は臨機応変にやつていかないと」
手塚「新歓イベントでは、当日になつて足りないものとかありましたが、企画・運営能力を上げていきたいですね」
佐藤「なかなか完璧ってできないものだから、これからはチームワークでカバーしていこうよ」

平成26年度の
公開講座

教養講座、授業公開講座に加えて、
新聞やテレビの
講座がはじまります

昨年十月から函館新聞で「函館大学紙上公開講座」がはじまりました。毎週金曜、教員がリーダーで「電気自動車の経済性」「観光客に優しい街へ」など親しみやすいテーマで執筆しています。

今年秋からは地元ケーブルテレビで函館にまつわる話題を講義形式で紹介する番組がはじまります。大学生の社会調査、商品開発、イベント実施などの取組みも一緒に放映されます。

市民向けに大学で行っている教養講座は、春期は昨年度人気の高かった英語の講座です。秋期は法律の観点から財産管理について。ハンドボール教室はこれまでの中学生、高校生から巡して、今年度、小学生が対象です。



公開講座実施委員会 委員長
准教授 大橋 美幸

新聞やテレビで

函館新聞紙上公開講座

●平成25年10月より毎週金曜日に、函館新聞の紙面に「函館大学紙上公開講座」を連載しています。教員の専門分野や関心を持っている事柄、大学での活動について、わかりやすく紹介しています。

これまでのテーマ一例 「『中心市街地活性化』を考える」
「スポーツ大会・合宿誘致」
「英語で函館を説明しよう」

●地元ケーブルテレビにて、8月頃から月に1回、教員が市民の方に向けて函館に関するテーマで映像講義を放映する予定です。

予定しているテーマ一例 「使ってくれるの？新幹線」
「エゾシカ肉の道南地域への普及」

教養講座・授業公開講座

春期教養講座

- 第1回 5月24日(土) 10:00~12:00
テーマ:「英文学入門」 講師:山田 康夫
- 第2回 6月14日(土) 10:00~12:00
テーマ:「使える英語のための発音のコツ」 講師:壁谷 一広

秋期教養講座

- 第1回 10月25日(土) 13:00~15:00
テーマ:「小学生ハンドボール教室」 講師:松 喜美夫
- 第2回 11月29日(土) 10:00~12:00
テーマ:「あなたの財産を守るためには?」
~印鑑を押す前に考えるべきことは~ 講師:永盛 恒男

授業公開講座

- 社会福祉論 9月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日) 9:00~16:20
講師:大橋 美幸
- 社会学 9月22日(月)~1月26日(月) 13:10~14:40 講師:大橋 美幸
- 簿記原理 9月25日(木)~1月29日(木) 火/9:00~10:30
木/13:10~14:40 講師:片山 郁夫

平成25年度 学校法人野又学園 決算書

資金収支計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,391,946	人件費支出	1,358,997
手数料収入	32,684	教育研究経費支出	446,284
寄付金収入	1,923	管理経費支出	179,429
補助金収入	702,116	借入金等利息支出	3,996
資産運用収入	60,195	借入金等返済支出	64,264
資産売却収入	327	施設関係支出	163,320
事業収入	145,984	設備関係支出	24,223
雑収入	56,671	資産運用支出	226,846
前受金収入	293,040	その他の支出	161,141
その他の収入	130,588	資金支出調整勘定	△163,910
資金収入調整勘定	△357,902	次年度繰越支払資金	335,183
前年度繰越支払資金	342,201		
資金収入の部合計	2,799,773	資金支出の部合計	2,799,773

消費収支計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	1,391,946	人件費	1,377,661
手数料	32,684	(内退職給与引当金繰入額)	(40,647)
寄付金	1,923	教育研究経費	673,742
補助金	702,116	(内減価償却額)	(227,458)
資産運用収入	60,195	管理経費	227,817
事業収入	145,984	(内減価償却額)	(48,389)
雑収入	56,671	借入金等利息	3,996
		資産処分差額	18,377
帰属収入合計	2,391,519	消費支出の部合計	2,301,593
基本金組入額合計	△229,268	当年度消費支出超過額	139,342
消費収入の部合計	2,162,251	前年度繰越消費収入超過額	58,159
		基本金取崩額	84,822
		翌年度繰越消費収入超過額	3,639

貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	15,451,304	固定負債	763,991
有形固定資産	(9,486,435)	流動負債	506,400
その他の固定資産	(5,964,869)	負債の部合計	1,270,391
流動資産	463,499	基本金の部	
		科目	金額
		基本金	14,640,773
		基本金の部合計	14,640,773
		消費収支差額の部	
		科目	金額
		翌年度繰越消費収入超過額	3,639
		消費収支差額の部合計	3,639
資産の部合計	15,914,803	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	15,914,803

授業アラカルト

『社会調査』

准教授 大橋 美幸 先生

「商学実習I」への前準備。
外とつながりを持ち、さまざまな経験を。



「外とのつながりを持ちながら、いろんな体験をしてほしい」と話す大橋 美幸先生。

大橋 美幸先生は平成十七年より函館大学の教壇に立ち、地域との関わりが深い社会福祉を専門としながら、今回ご紹介する『社会調査』のほか、社会福祉論、社会学、商学実習I・II、さらには専門ゼミや教養ゼミなどを担当し、多くの学生と関わっています。そんな大橋先生は、どんなビジョンを持って授業を行っているのでしょうか？お話を伺いました。

「社会調査」は二年生の学生にとって必修科目となるひとつ。さらに、二年生の時に単位をとっていない上級生も受けているそうです。授業は毎週月曜日の四限、前期の半間に渡って全十五回行われます。「社会調査」ですから、アンケート項目の作り方や調査の仕方などを学んだあとは、学生が実際に街頭へ出てアンケートをとってきます。ただし、一年生は平日にビッシリと授業が入っているため、アンケート調査は土日を使って行っているんです」と大橋先生。

「社会調査」は二年生の学生にとって必修科目となるひとつ。さらに、二年生の時に単位をとっていない上級生も受けているそうです。授業は毎週月曜日の四限、前期の半間に渡って全十五回行われます。「社会調査」ですから、アンケート項目の作り方や調査の仕方などを学んだあとは、学生が実際に街頭へ出てアンケートをとってきます。ただし、一年生は平日にビッシリと授業が入っているため、アンケート調査は土日を使って行っているんです」と大橋先生。

力して集計し、最終的にまとめてレポート提出するまでをグループごと(2グループは三〜四人)に進めていきます。少人数でグループ分けしている理由は、大人数だと作業内容によっては手を余してしまうから出てきてしまうからとのこと。

アンケート調査を行う場合、協力を断る人も少なくありません。そこで大橋先生は、学生たちにこんな助言をしているそうです。「断られた時は笑顔で引き下がらなさい。でも、心は折れずに次の人にトライして」と。は言いながら、アンケートが必要枚数に満たないグループに対しては、「もう一回行ってきて」と突き放すことも。しかし、これは本人たちのためと思つての言葉なのでしょう。

また、調査はグループごとに行っていることから、役割分担の仕方や協調性なども身に付けてもらいたいと期待しています。「社会調査を知識として学ぶことはもちろんですが、みんなはいずれ社会人になるわけですから、大学生である間に、社会人としての振る舞いも身に付けてもらいたいですね。」



グループごとに作業をしていくことから、調査についてだけでなく、社会に出てから必要なことも身に付けていきます。